環境 経営レポート

第　18　版

第　59　期　：　2024　年 11 月 1 日 ～　2025　年 10 月 31 日

FUKAI

発行日　　：　2026　年　1　月 26 日

株式会社
深井製作所

目次

Ⅰ	組織の概要	・・・・・	P1
Ⅱ	環境経営方針	・・・・・	P2
Ⅲ	実施体制	・・・・・	P3
Ⅳ	環境経営目標	・・・・・	P4
Ⅴ	環境経営目標の実績とその評価	・・・・・	P5
Ⅵ	環境経営計画の取組結果・評価、次年度の環境経営計画	・・・・・	P6～P9
Ⅶ	当社の取組み	・・・・・	P10
Ⅷ	環境関連法規遵守状況および違反、訴訟の有無	・・・・・	P11
Ⅸ	代表者による全体の評価と見直し、指示	・・・・・	P12

Ⅰ．組織の概要

1. 事業者名および代表者名

株式会社　深井製作所
代表取締役　深井 将之

2. 所在地

名称	所在地	延床面積	備　考
第1工場	静岡県静岡市葵区福田ヶ谷370－3	敷地 1,413.83㎡ 建物 1,314.98㎡	今回の認証対象
第2工場	静岡県静岡市葵区福田ヶ谷370－3 ※第1工場に隣接	敷地 1,496.91㎡ 建物 1,418.52㎡	今回の認証対象

3. 環境管理責任者、推進担当者名および連絡先

環境管理責任者　：深井　俊行
推進担当者　：白鳥　司

連絡先
TEL　：054-294-1188
FAX　：054-294-9515
E-meil　：t-shiratori@fukai-ss.co.jp
ホームページ　：http://www.fukai-ss.co.jp

4. 事業概要

プレス加工・金型設計作成
自動車電装部品・EV/HEV駆動用部品・ホビー部品のプレス加工と組立

5. 事業規模

2025年11月1日現在

項　目	内　容
延べ床面積	2891.96　m2
従業員数	48 名　（パート、バイトを含む）

6. 事業年度

毎年　11月1日　～　翌年　10月31日

7. 認証、登録範囲

登録組織名　：株式会社　深井製作所
取組対象組織名　：株式会社　深井製作所
取組対象活動　：プレス加工・金型設計作成
自動車電装部品・EV/HEV駆動用部品・ホビー部品のプレス加工と組立

Ⅱ. 環境経営方針

環境理念

自動車電装部品の製作をするにあたり、良好な地球環境を次世代に引き継ぐことが、我々の責務であることを認識し「自然環境の保全と環境にやさしい事業活動」を念頭に、地域社会と調和して、継続的な環境保全と向上に努めます。

基本方針

1. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。

　1-1　電力消費量の削減

　1-2　ガソリン・軽油・灯油使用量の削減

2. 廃棄物排出量の削減を推進します。

　2-1　分別による可燃ゴミの削減

3. 排水量の削減を推進します。

　3-1　水使用量の削減

4. 製品・サービスに関する環境配慮に努めます。

　4-1　不良流出の低減を推進します。

5. 環境コミュニケーションの推進をします。

　5-1　隣接河川の清掃

6. 環境関連法規を遵守します。

7. 環境経営の継続的改善を誓約します。

改定日　2025 年　10 月　31 日

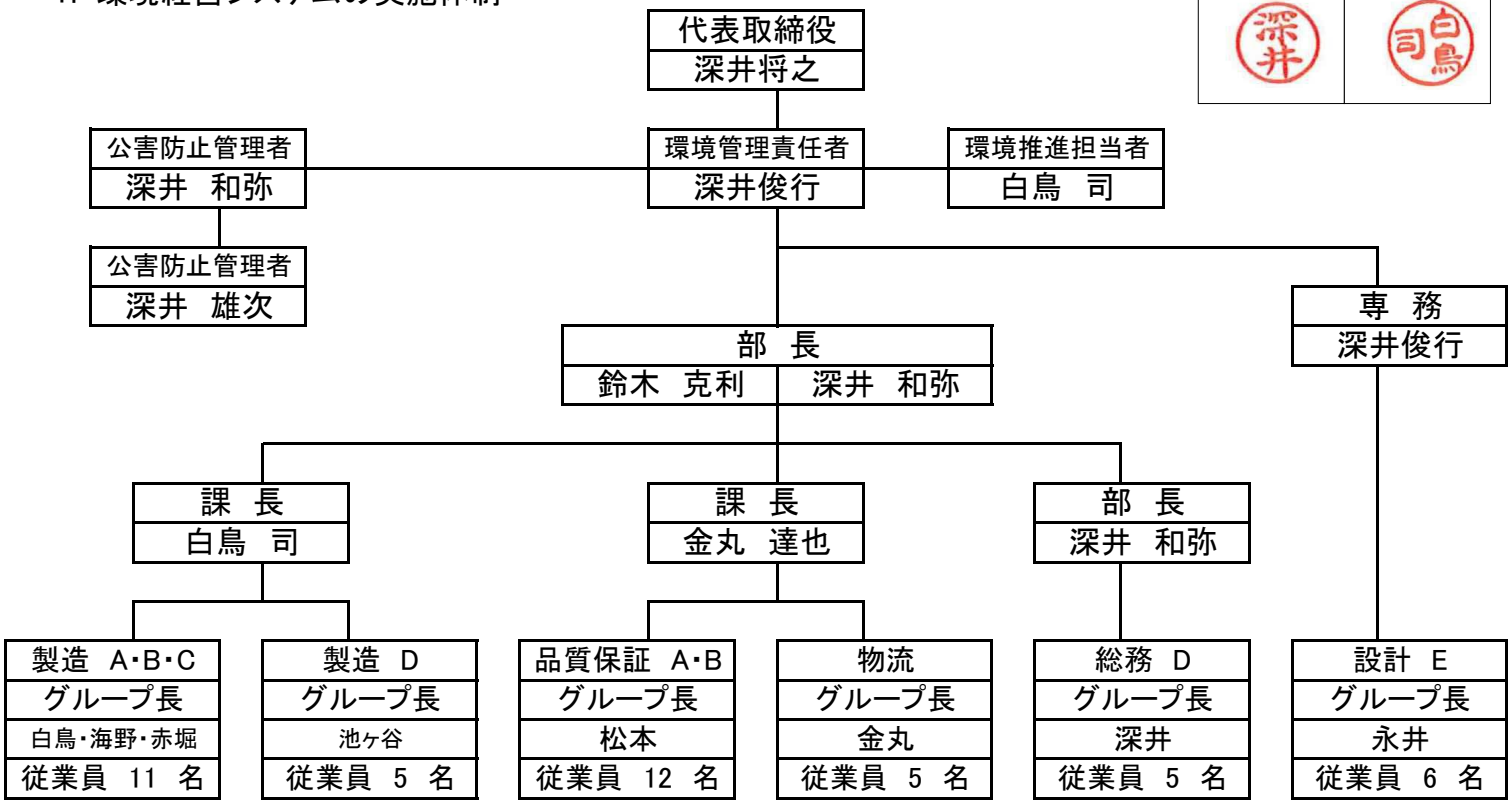
株式会社　深井製作所

代表取締役　深井　将之

Ⅲ. 実施体制

承　認	作　成
深井	白鳥 司

1. 環境経営システムの実施体制



2. 関係者の役割と権限

代表取締役

- ･会社経営の一環として環境経営システムを統括する
- ･必要な人材･設備･資金･時間等を適切に準備する
- ･環境管理責任者を任命し環境管理システムの実務上の権限を委任する
- ･環境経営方針の策定･見直し及び全従業員への周知
- ･代表者による全体の評価と見直しの実施
- ･必要に応じ環境内部監査チームを設置、監査実施の指示、および監査結果の対応を環境管理責任者に指示
- ･緊急事態発生時の統括

環境管理責任者

- ･環境管理システム全体の構築･運用･維持に関する実務上の権限･責任を持つ
- ･環境管理システム全体の構築･運用･維持状況の報告
- ･環境経営目標･環境経営計画の策定と見直し
- ･環境経営方針･環境経営目標･環境経営計画の遂行
- ･環境関連法規等の取りまとめと見直し
- ･代表による全体の評価と見直しに必要とする情報を報告
- ･環境経営レポートの作成
- ･環境関連の対外的窓口
- ･緊急事態発生時の指揮
- ･中間審査･更新審査の受審査

環境推進担当者

- ･環境管理責任者の役割全般の補助
- ･環境経営システム運用に係わるデータの収集･まとめ
- ･文書･記録類の管理

グループ長

- ･自部門の環境経営システムの運用･維持
- ･社長･環境管理責任者の指示･命令の伝達
- ･自部門の環境関連法規等の遵守の徹底と状況把握
- ･自部門の環境関連教育の実施
- ･問題発生時の応急処置･是正処置･予防処置の実施

従業員

- ･環境経営方針･環境経営目標･環境経営計画取組みの遂行
- ･環境関連法規等の遵守
- ･地域社会の環境施策･行事への参加など社会貢献

Ⅳ. 環境経営目標

1.　運用期間の環境目標　　2024　年　11　月　1　日　～　2025　年　10　月　31　日

項目		単位	第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～2025年10月31日	
			基準値	目標削減量	目標値
電力		kWh	500,904	-2.0%	490,886
二酸化炭素排出量		kg-CO2	45,774	-2.0%	44,858
	ガソリン	L	11,993	-2.0%	11,753
	軽油	L	4,949	-2.0%	4,850
	灯油	L	2,081	-2.0%	2,039
廃棄物削減		kg	3,540	-2.0%	3,469
水使用量		m3	1,266	-1.0%	1,253
環境に配慮した製品づくり （不良品の流出件数）		件	15		15

〈備考〉

注1）第58期から静岡Greenでんきを購入のため排出係数を　0.00　kg-CO2/kWh　で算出

※ 静岡Greenでんきとは・・・大井川水系の豊かな水資源から生まれた静岡県産のCO2排出ゼロの電気

二酸化炭素排出量はガソリン、軽油、灯油で算出

項目		単位	基準年度	目標年度		
			第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～ 2025年10月31日	第60期 2025年11月1日～ 2026年10月31日	第61期 2026年11月1日～ 2027年10月31日
			基準値	目標値	目標値	目標値
電力		kWh	500,904	-2.0%	-3.0%	-4.0%
				490,886	485,877	480,868
二酸化炭素排出量		kg-CO2	45,774	-2.0%	-3.0%	-4.0%
				44,858	44,401	43,943
内訳	ガソリン	L	11,993	-2.0%	-3.0%	-4.0%
				11,753	11,633	11,513
	軽油	L	1,949	-2.0%	-3.0%	-4.0%
				4,850	4,801	4,751
	灯油	L	2,081	-2.0%	-3.0%	-4.0%
				2,039	2,019	1,998
廃棄物削減		kg	2,540	-2.0%	-3.0%	-4.0%
				3,469	3,434	3,398
水使用量		m3	1,226	-1.0%	-2.0%	-3.0%
				1,253	1,241	1,228
環境に配慮した製品づくり （不良品の流出件数）		件	15	15	15	15

Ⅴ. 環境目標の実績とその評価

1. 全体のまとめ

評価記号の判定基準
- ○ 印：目標値達成
- △ 印：目標値未達度5%以内
- × 印：目標値未達度5%超

項目		単位	第58期	第59期		評価	
			2023年11月1日～2024年10月31日	2024年11月1日～2025年10月32日			
			基準値	目標	実績		
電力		kWh	500,904	−2.0% 490,886	34.6% 新電力（静岡グリーンでんき） 541,639 自家発電（太陽光パネル） 132,941 合計 674,580	×	過去最高の生産量を毎月更新していく中でシフト生産を導入し、土日稼働を実施したことで消費が大幅に増加、活動めんでは生産効率を上げることで電力消費を最小限にすることはできていた。新電力及び自家発電により実質的な二酸化炭素排出量はゼロであるが、消費量は増加している。省エネの実施とともに新電力の購入量を削減し自家発電の比率を上げる努力を行っていきたい。
二酸化炭素排出量		kg−CO2	45,774	−2.0% 44,858	−8.5% 41,903	○	
内訳	ガソリン	L	11,993	−2.0% 11,753	1.2% 12,135	△	内職への運搬業務の見直しを行う事で、内職件数は前年度の倍近くに増加したがガソリン使用量は目標近くに収める事が出来た
内訳	軽油	L	4,949	−2.0% 4,850	−20.5% 3,934	○	新型トラック導入により大幅削減が実現できた（基準値の見直しが必要）
内訳	灯油	L	2,081	−2.0% 2,039	−30.6% 1,445	○	灯油式から電気ストーブへの移行箇所も増え大幅削減となった（基準値の見直しが必要）
廃棄物削減		kg	3,540	−2.0% 3,469	−15.8% 2,980	○	基準年は工場内のレイアウト変更などで廃棄物が多くなっていたが、今期は大きな変更もなく廃棄物は大幅削減となった（基準値の見直しが必要）
水使用量		m3	1,266	−2.0% 1,253	−1.8% 1,243	○	従業員の削減意識も根付いて来ており削減お出来ている
環境に配慮した製品づく（不良品の流出件数）		件	15	15	14	○	目標値に対しては1件減らすことが出来たが、0件に近づける努力を日々取組んでいる

<備考>削減比率は、目標値に対する削減量の割合である。

Ⅵ-1. 環境経営計画の取組結果・評価、次年度の環境経営計画

1. 電力消費量削減

項目		単位	第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～2025年10月31日		評価
			基準値	目　標	実　績	
内訳	電力	kWh	500,904	−2.0% 490,886	1.3% 507,277	△

環境経営項目 （年間を通しての活動）　責任者：白鳥	評価	コメント	次年度の取組内容
太陽光パネル稼働による自家消費の実施	○	自社で発電した電力を使用することで、電力会社からの購入量を減らしCo2削減に努めた。	次年度も継続
エアコンの設定温度を適切に設定(設定温度：通年24℃固定)	○	8月から9月にかけて第二工場天上部に断熱シート貼付け工事を実施、暑さ対策を実施	次年度も継続
一日ごとの生産効率の向上	○	部品毎に設備の回転数を改善、1時間あたりの生産量増加を行いました。	次年度も継続

〈今年度取組み〉

問題箇所や改善箇所を製造部と
設計部で連携し改善を行い
製品の作りこみに重点を置く事で
設備停止が起きない改善活動に
取組みを行った

作り込みを行う事で、生産時での
回転率を再度見直し1時間毎の生産量を
上げる事で1日当たりの生産数増加を
実現できた

設備、製品に合わせ随時取組み実施中

Ⅵ-2. 環境経営計画の取組結果・評価、次年度の環境経営計画

1. ガソリン、軽油、灯油消費量削減

項目		単位	第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～2025年10月31日		評価
			基準値	目　標	実　績	
二酸化炭素排出量		kg-CO2	45,774	-2.0% 44,858	-8.5% 41,903	○
内訳	ガソリン	L	11,993	-2.0% 11,753	1.2% 12,135	△
	軽油	L	4,949	-2.0% 4,850	-20.5% 3,934	○
	灯油	L	2,081	-2.0% 2,039	-30.6% 1,445	○

環境経営項目 （年間を通しての活動）　責任者：白鳥	評価	コメント	次年度の取組内容
量産部品での小ロット生産の強化	○	生産実績を毎日検討し、月予定と照らし合わせ現場主体での計画を行った	次年度も継続
自社便での運搬作業改善	○	新規トラック導入にあたり、積載および運搬ダイヤを再検討	次年度も継続
灯油ストーブ→電気ストーブへの変更	○	灯油ストーブを電気ストーブに変更することで灯油の使用量を減らしCO2排出削減し務めた。	次年度も継続

<今年度取組み>

2024年12月より導入した自社運搬作業用大型トラックは従来の4tから積載量を6tに増やし、さらに使用パレットに合わせ両側にパレットを積むことが出来る設計にしてもらう事で、1度の運搬作業での積載が増え稼働回数が減らすことが出来た事が軽油削減の大きな要因

Ⅵ-3. 環境経営計画の取組結果・評価、次年度の環境経営計画

1. 廃棄物排出量削減

項目	単位	第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～2025年10月31日		評価
		基準値	目　標	実　績	
廃棄物削減	kg	3,540	−2.0% 3,469	−15.8% 2,980	○

環境経営項目 （年間を通しての活動）　責任者:白鳥	評価	コメント	次年度の取組内容
出荷用段ボール箱の再利用	○	出荷での使用ダンボールを再度利用し低減を行った	次年度も継続
ペーパーレス化の推進	○	今まで使用していた、日報および社内で使用していた紙での管理物をデータ管理へ移行を行っている	次年度も継続

<今年度取組み>

生産管理ボートから
直接データ化に

紙で行っていた日報などをデータ化を
進めペーパーレス化に取組んだ

1. 水使用量削減

項目	単位	第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～2025年10月31日		評価
		基準値	目　標	実　績	
水使用量	m3	1,266	−1.0% 1,253	−1.8% 1,243	○

環境経営項目 （年間を通しての活動）　責任者:白鳥	評価	コメント	次年度の取組内容
排水量削減の為、 手洗い場のルール作り	○	前期より継続して行うことができた。	次年度も継続

Ⅵ-1. 環境経営計画の取組結果・評価、次年度の環境経営計画

1. 不良流出の低減

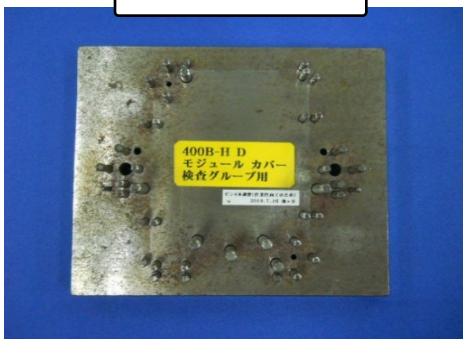
項目	単位	第58期 2023年11月1日～ 2024年10月31日	第59期 2024年11月1日～2025年10月31日		評価
		基準値	目　標	実　績	
環境に配慮した製品づくり （不良品の流出件数）	件	15	15	14	○

環境経営項目　責任者：鈴木	評価	コメント	次年度の取組内容
協力工場での不良低減	○	協力会社で不良が発生した際に原因と対策を聴取。社内でも展開することで不良低減に努めた。	製品の傾向管理
異常時の異常処置の徹底	○	設備異常が発生した際にすぐに対応ができるよう、設備部門のG長を発足不良低減に努めた。	金型の傾向管理、 メンテナンス管理
工程内不良の吸出しと処置の徹底および管理の徹底で不具合の低減	○	工程内不良が出た際は部長・課長・G長に報告。当日中に全部署に展開することで不良低減に努めた。	機械制御による工程内不良低減

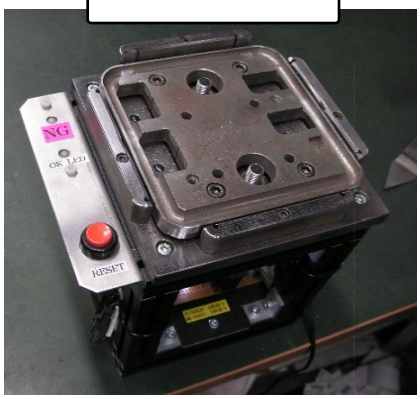
〈今年度取組み〉

放熱シートを貼り付ける製品が増加し
貼り忘れ不良の発生が問題となっていた

従来の治具



センサー治具



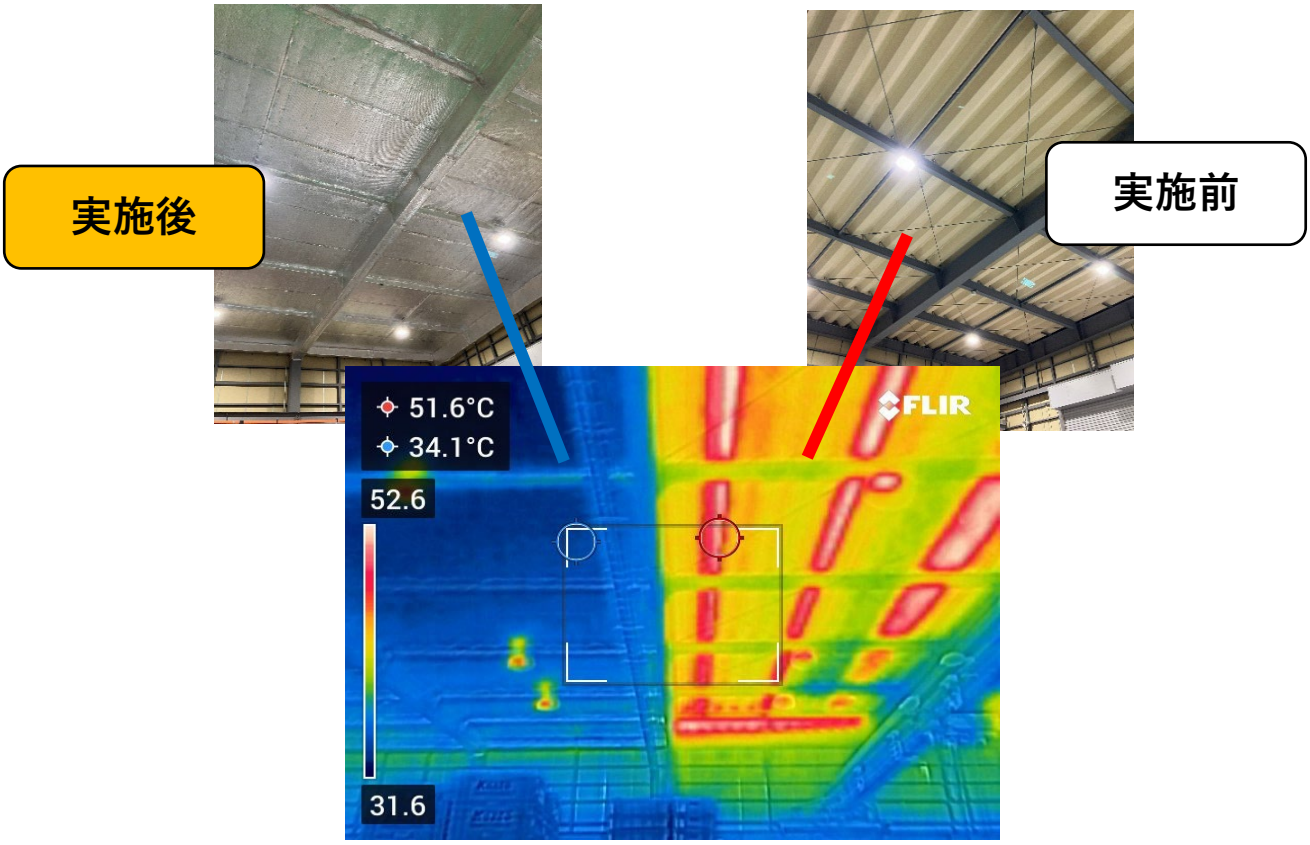
従来は変形を治具で検査を行い
その後、放熱シートを目視検査
を行っていたが、種類および枚数
などが年々増加していく事で
目視検査では対応が厳しくなっていた

センサーを使用し放熱シートの
検査を行う治具を自社で設計、作成
を行い機械での検査を導入する事で
不良を低減する事が出来た

Ⅶ. 当社の取組み

1. その他の取組み

夏季に入ると工場内の気温が35℃以上に達し作業環境が年々厳しくなっている現状に
対し断熱シートを工場の天井に設置する事で工場内の気温を下げる取組みを行った
実施　：　2025年8月～9月



実施前
天井での温度は**50℃**を超え、
工場全体の温度上昇を起こしていた

工場内気温
35℃　以上

実施後
天井での温度は**35℃**程度に低下、
工場での気温低下を実現できた

工場内気温
30℃　前後

Ⅷ. 環境関連法規遵守状況および違反、訴訟の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

		確認者
作成	： 2019 年 11 月 1 日	白鳥
見直し	： 2024 年 11 月 1 日	白鳥
遵守確認	： 2025 年 10 月 31 日	深井

〇印：違反なし　×印：違反あり

法規等の名称	該当項目	遵守すべき事項	当社対応・施設等	遵守結果
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物 産業廃棄物	産業廃棄物の委託契約、マニフェストの交付、保管管理、廃棄物置場の保管基準厳守、マニフェストの交付状況報告	可燃物は積載所へ運搬	〇
			ﾋﾞﾆｰﾙ類は業者での引取り	〇
プラスチック資源循環法	廃プラスチックの排出抑制、再資源化の促進	廃プラスチックの分別、排出量把握、委託処理	廃プラスチックは業者で引取り	〇
騒音規制法	指定地域内の特定施設を設置する工場又は事業の騒音	騒音規制基準：dB （年1回実施） 昼間 朝・夕 夜間 第2種区域 55 50 45	規制基準順守 （測定日：2025.8.2） 昼間 朝・夕 夜間 第2種区域 50 47 40	〇
		特定施設の届出	該当特定施設の届出	〇
振動規制法	指定地域内の特定施設を設置する工場又は事業の振動	振動規制基準：dB （年1回実施） 昼間 夜間 第1種区域の2 65 55	規制基準順守 （測定日：2025.8.2） 昼間 夜間 第1種区域 60 50	〇
		特定施設の届出	該当特定施設の届出	〇
公害防止組織法	特定工場　製造業 騒音・振動発生施設 99重量トン以上の機械プレス所有	公害防止管理者の選任と届出	公害防止総括者と代理者の選任	〇
			公害防止管理者の届出（2025.12.25） 公害防止代理者の届出（2025.12.25）	〇
労働安全衛生法	通知対象物質の取扱に関する内容の労働者への周知等	労働者への周知	SDSを用いた教育の実施	〇
			SDSの現場での掲示	〇
		作業環境の確保	作業現場の通気性の確保	〇
		健康診断の実施	従業員の健康診断の実績	〇
浄化槽法	浄化槽の廃止	浄化槽の使用廃止から30日以内に知事へ届出	届出	該当なし
	公共用水域等の水質保全	浄化槽から公共水域等に放流される水の水質基準	水質基準の遵守	〇
	法定検査　第7条	指定検査機関による水質に関する検査の実施	設置後水質検査	〇
	法定検査　第11条	指定検査機関による検査の実施	法定検査の実施（1回/年）	〇
	定期検査	指定検査期間による検査の実施	記録の保管（保管期間：3年）	〇
	保守点検	指定検査期間による検査の実施	記録の保管（保管期間：3年）	〇
	清掃	事業者による清掃の実施	記録の保管（保管期間：3年）	〇
消防法	危険物の保管、届出	指定数量2000ℓの5分の1保管	第4類第3石油類（非脂溶性液体） 指定数量400L 上限を超えないよう保管の把握	〇
フロン排出抑制法	第一種特定製品の管理	3ヶ月に1回簡易点検の実施	記録の保管（保管期間：3年）	〇
		3年に1回定期点検の実施委託	記録の保管（保管期間：3年）	該当なし
		フロン類の漏えいがあった際の修理	記録の保管（保管期間：3年）	該当なし
		フロン類算定漏えい量の算出および報告	1000CO2-t 以上の場合は報告	該当なし
		廃棄時のフロン類回収の徹底	記録の保管（保管期間：3年）	該当なし

※当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

※違反、訴訟等の有無　　当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。

X. 代表者による全体の評価と見直し、指示

2025 年　10 月　31 日

代表取締役　深井　将之

1. 今期全体評価・コメント

今年度も生産量は過去最高を記録する月など、前年度から引き続き忙しい一年となりました。既存部品での増産が大きく、日々の生産能力向上は大きな課題でしたが会社全体で取り組む事で対応する事が出来ました。次年度では新規部品の立ち上がりも控えている為、より一層の改善を進めていく必要がありますが従業員からの意見を吸い上げより良い環境整備にも同時に取組んで行かなくてはなりません、その一環として猛暑が続く近年では健康を害する危険な気温になっている為、弊社でも環境整備として工場天井に断熱シートを設置して気温を下げる工事を実施した事で、次年度では効果を体感できると考えています。こういった現場への環境整備は経営課題の大きな一つとして捉え今後も積極的に取組んで行きたいと考えております。

2. 見直し指示

項　目		見直しの必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境方針	有　・　(無)	
2	環境目標・計画	(有)　・　無	業務内容の変化が大きい為、基準値設定を前年度の数値をスライドさせ設定を行う
3	環境活動計画・取組項目	有　・　(無)	
4	環境に関する組織	有　・　(無)	
5	その他のシステム要素	有　・　(無)	
6	その他（外部への対応）	有　・　(無)	